

2017年4月3日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2016 を選出：
IPO はJR九州/LINE、SB はパナソニック

キャピタルアイ・ニュースは3日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2016” を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2016年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

新規公開株式部門では、大型民営化案件のJR九州、国内外で2億1800万人のユーザーを持つLINEと、市場の注目をさらった2件が、既公開では2000億円超を売り出したリクルートホールディングスが受賞した。J-REITでは三井不動産ロジスティクスパーク投資法人、オリックス不動産投資法人が高い評価を受け、本邦初のスキームかつ2000億円を円滑に消化したスズキのCB、インフラファンドの1号案件であるタカラレーベン・インフラ投資法人も受賞した。

SBは、コーポレート物で年度最大だったパナソニック、復活の東京電力パワーグリッド、「リキャップ SB」の第一三共、公募型ハイブリッド債を継続発行している三菱商事が受賞。公共債では、水準を調整した日本政策投資銀行と愛知県、年度初めに新手法を示した北九州市、新しい年限を供給した埼玉県、道路会社債の模範となった東日本高速道路が賞賛された。年度で2兆5000億円超のRMBSを円滑に消化した住宅金融支援機構は証券化部門で受賞した。

サムライ債では欧州金融機関で過去最大だったHSBCホールディングス、久々の中国物だったCITICグループ、年度最大の額を供給したBPCEが受賞。日本の生保で史上最大のドル債を発行した第一生命保険、TLAC 適格債を世界初のグリーンボンドで供給した三菱UFJフィナンシャル・グループ、「アメスピ」の買収関連資金をドル債で調達した日本たばこ産業、日本銘柄のベンチマークの役割を果たしている国際協力銀行が外債部門で選ばれた。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEALS OF 2016

第 15 回 パナソニック債	9 月 1 日	5 年	2000 億円
第 16 回 パナソニック債	9 月 1 日	7 年	700 億円
第 17 回 パナソニック債	9 月 1 日	10 年	1300 億円

〈野村/SMBC日興/大和/みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー/ゴールドマン・サックス/メリルリンチ日本〉

4000 億円という機関投資家向けのコーポレート物で当年度最大の発行額を円滑に消化した。需要に応じて各年限の発行額を振り分け、規模に沿ったプライシングで大型案件における起債運営の見本を示した。金融政策の不透明感が強く、金利変動が大きいなかだったが、全員参加のディールとなり、最終需要は 5500 億円近くに上った。

特別賞

第 1 回 東京電力パワーグリッド債	3 月 3 日	3 年	400 億円
--------------------	---------	-----	--------

〈みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー/野村/SMBC日興/大和/しんきん〉

第 2 回 東京電力パワーグリッド債	3 月 3 日	5 年	500 億円
--------------------	---------	-----	--------

〈SMBC日興/野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/大和/しんきん/みずほ〉

6 年半ぶりに社債市場に復帰。一般送配電を担い、グループのなかでも収益力が高く、安定している東電 PG が起債することで投資家の参加を促した。本邦最大の発行体だった東京電力グループの復活は、クレジット投資における選択肢の拡大にも貢献した。900 億円に対して倍近い需要を集め、今後見込まれる定期発行に向けた礎を築いた。

特別賞

第 5 回 第一三共債	7 月 15 日	20 年	750 億円
-------------	----------	------	--------

第 6 回 第一三共債	7 月 15 日	30 年	250 億円
-------------	----------	------	--------

〈大和/みずほ/ゴールドマン・サックス〉

社債発行で調達した資金を活用して自社株買いを実施する「リキャップ SB」の実質的な本邦 1 号案件。新たなファイナンス手法の先陣を切り、成功裏に終えたことで同手法での後続案件が複数登場し、資本市場の裾野拡大に寄与した。20 年・30 年という超長期債のみで、コーポレート物では過去最大となる 1000 億円の調達も達成している。超長期の国債利回りが低位で推移していた状況下で、利回り確保を求める投資家の需要を取り込んだ。

BEST ISSUER OF 2016

三菱商事

昨年 6 月に公募型ハイブリッド債を国内で初めて起債し、当年度も継続発行した。劣後ローン市場に流れる発行体が多いなか、運用難に悩む社債投資家に利回りが取れる商品への投資機会を提供。本格的な POT 方式による透明性の高いプライシング手法を引き続き導入し、市場との対話を重視する姿勢が高い評価を得た。

財投機関債等部門

BEST DEALS OF 2016

第 73 回 日本政策投資銀行債	1 月 12 日	3 年	200 億円
第 74 回 日本政策投資銀行債	1 月 12 日	5 年	200 億円
第 75 回 日本政策投資銀行債	1 月 12 日	10 年	200 億円

〈三菱UFJモルガン・スタンレー/野村/SMBC日興〉

トランプ相場後の金利上昇を受け、需給が軟化した 5 年・10 年の公共債セクターの水準調整を先駆けて行った。年明け後すぐのタイミングに、先行対比で 5 年債を 3bp 弱、10 年債では 2bp 拡大。こうした動きを受けて、1 月の 5 年物地方債もワイド化する流れとなり、公共債マーケットの立て直しに大きく貢献した。

BEST ISSUER OF 2016

東日本高速道路

当年度は 5 回登場し、総額 2800 億円を調達。年度を通じて、道路会社債全体の円滑な消化を考慮した起債運営でこのカテゴリーを牽引した。1 月の 5 年債では 0.07%と、それまでの 0.03%から一気に 4bp 調整。期初に 5 年物道路会社債のベンチマークを示す役割も果たした。

地方債等部門

BEST DEAL OF 2016

第 1 回 埼玉県債	10 月 19 日	25 年	150 億円
------------	-----------	------	--------

〈野村〉

満期一括償還の公募一般債で本邦初の 25 年債。新たな年限を供給して地方債市場の発展に寄与した。0.4%台だった 20 年債の利回りに不足感を持ち、30 年の年限リスクは取れない向きにとって 0.5%超のクーポンが魅力となった。

BEST DEAL OF 2016

平成 28 年度第 1 回 北九州市債	4 月 6 日	10 年	100 億円
---------------------	---------	------	--------

〈野村/三菱UFJモルガン・スタンレー〉

年度の最初に 10 年地方債で初めて絶対値プライシングを導入し、後続に好影響を与えた。10 年国債の利回りが 10bp 台の幅でマイナスに沈み、スプレッドだけの投資判断が難しかった状況で、絶対値を提示して市場の目線を形成した。

BEST DEAL OF 2016

平成 28 年度第 16 回 愛知県債	2 月 3 日	10 年	250 億円
---------------------	---------	------	--------

〈みずほ/三菱UFJモルガン・スタンレー/SMBC日興〉

国債スプレッドを 2bp ワイド化させ、10 年地方債の需給悪化の流れに歯止めをかけた。11 月の金利急上昇による国債回帰などで流通実勢と発行水準の乖離が広がっていたものの行われなかった調整を、ようやく実現させた。大口投資家の復活も見られた。

BEST ISSUER OF 2016

埼玉県

幅広い年限を供給して市場の拡大に貢献している。受賞案件の 25 年債や、都道府県初の 30 年定時償還債を発行。Brexit 決定直後で金利が急低下する環境だった 7 月には 30 年満期一括債で初めて絶対値とスプレッドを併用した運営を実施。1 月には、金利上昇で投資妙味が復活した 15 年債の再開を実現した。30 年満期一括債を、東京都以外で唯一年度に 2 回供給する団体でもある。

サムライ債部門

BEST DEALS OF 2016

第 1 回 H S B Cホールディングス債	9 月 15 日	5 年	581 億円
第 2 回 H S B Cホールディングス債	9 月 15 日	7 年	593 億円
第 3 回 H S B Cホールディングス債	9 月 15 日	10 年	644 億円
〈HSBC/みずほ/野村/SMBC日興〉			

発行体として初となるサムライ債市場での TLAC 適格債。Brexit 決定で英国物にネガティブな見方があるなか、IR でクレジットの説明を丁寧に行ったうえ、マーケットが落ち着いたタイミングで起債に踏み切ったことで幅広い投資家の関心を引き寄せた。総額 1818 億円は欧州金融機関として過去最大だった。高い信用力を強みに海外と同等のプライスと全年限で 600 億円前後を達成した。

特別賞

第 4 回 フランス電力債	1 月 20 日	10 年	1079 億円
第 5 回 フランス電力債	1 月 20 日	20 年	31 億円
第 1 回 フランス電力債	1 月 20 日	12 年	196 億円
第 2 回 フランス電力債	1 月 20 日	15 年	64 億円
〈三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/SMBC日興〉			

長期・超長期だけで総額 1370 億円の需要を集め、コーポレート物のサムライ債で初の偉業を達成した。基軸の 10 年債で 1000 億円以上のオーダーを取り込むために、常に 1% 以上の絶対値が見渡せるレンジで運営。グリーンボンド(GB)として組み入れた 12 年・15 年債では、ESG 投資家の札を積み上げ、計 260 億円の買いを呼び込んだ。巧みな戦略で 1000 億円超を調達しただけでなく、欧州最大の GB 発行体としての実力を発揮した。

特別賞

第 9 回 C I T I C グループ債	10 月 20 日	3 年	282 億円
第 10 回 C I T I C グループ債	10 月 20 日	5 年	468 億円
第 11 回 C I T I C グループ債	10 月 20 日	7 年	200 億円
第 12 回 C I T I C グループ債	10 月 20 日	10 年	50 億円

〈大和/三菱UFJモルガン・スタンレー/みずほ/野村/SMBC日興〉

発行体にとって 20 年ぶりのサムライ債は、中国物で初の総額 1000 億円のディールとなった。同国クレジットに慎重な見方があるなか、モノ不足や高い絶対値を抛り所とし、複数回の IR での啓蒙も幅広い層の買いを呼び込み、2000 億円近い需要を集めた。中国政府系と伊藤忠商事の出資という安心材料に加え、投資家の声に柔軟に対応した年限設定やプライシングが大型ディールの成功を支えた。

BEST ISSUER OF 2016

B P C E

総額 2563 億円はサムライ債市場で年度最大。6 月に 7 年債を軸に 3 本立てで起債し、7 月には海外発行体で初の個人投資家向け B3T2 劣後債を発行した。12 月にフランス国内で TLAC 関連法が発効すると、同国ネームとして初の TLAC 債で 1 月に登場。この商品を買えない投資家への配慮として、7 年・10 年物通常シニア債も併せて発行した。幅広い選択肢を提供したことで、同国の銀行で過去最大となる総額 1427 億円のディールを実現した。

証券化部門

BEST DEAL OF 2016

該当なし

BEST ISSUER OF 2016

住宅金融支援機構

年度で 2 兆 5280 億円という機構の月次債では最大の額を円滑に消化し、日本の証券化市場を支えている。マイナス金利政策の導入による金利低下を受けて、住宅ローンの申し込みが急増したため、RMBS の発行も大幅に増加した。年度で 12 回のうち 8 回が 2000 億円を超える額で、なかでも 10 月の第 114 回債は年度最大の 2529 億円だった。高格付けで相対的に高い利回りを得られる商品性と実勢に即したプライシングで毎回のように新規や復活先が見られた。

外債部門

BEST DEAL OF 2016

第一生命保険 グローバルドル劣後債 7月13日 永久（NC10） 25億ドル
〈ゴールドマン・サックス/みずほ/モルガン・スタンレー/JPモルガン/シティグループ〉

本邦生保ハイブリッド債で初の4%、史上最大の25億ドルという発行額を同時に達成した。Brexit 決定後のマーケットが回復したタイミングを見極めて登場した。電話会議で確認した目線を踏まえたマーケティングでアジアや米国の強い買い意欲を捉え、それまでの最低クーポンだった4.7%を70bp下回り、5%割れから一気に4%へと到達した。

特別賞

三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル債 9月6日 5年 15億ドル
三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル債 9月6日 7年 5億ドル
三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル債 9月6日 10年 10億ドル
三菱UFJフィナンシャル・グループ グローバルドル変動利付債 9月6日 5年 10億ドル
〈モルガン・スタンレー/MUFGセキュリティーズ/シティグループ〉

TLAC 適格債として世界初のグリーンボンドとなる7年債を含む4本立てで登場。環境ファイナンスへの評価が新たな投資家層の開拓につながり、総額40億ドルに対して140億ドル超の旺盛な需要を集めた。レイバーデー明け直後という良好な環境を生かしつつ、基軸の5年・10年債でクレジットカーブを形成するだけでなく、企業の社会的責任（CSR）への取り組みもアピールした。

特別賞

日本たばこ産業 ユーロドル債 4月7日 5年 7億5000万ドル
日本たばこ産業 ユーロドル債 4月7日 10年 5億ドル
〈BOAメリルリンチ/シティグループ/みずほ/BNPパリバ/クレディ・アグリコル/ドイツ〉

米レイノルズ「ナチュラル・アメリカン・スピリット」ブランドの米国外事業の買収に関連した起債。M&A という前向きな資金調達が評価され、総額90億ドルという爆発的な需要の盛り上がり、イニシャルプライスソーツから20bp以上タイトなプライスの両方を実現した。およそ3年ぶりのドル債かつ希少性の高いダブルA格コーポレート物であることがアジア・欧州勢の強い関心を引いた。

BEST ISSUER OF 2016

国際協力銀行

日本物ドル債のベンチマークの役割を果たし続け、年度で過去最大となる総額103億ドルを発行した。4月の5・10年債は、クレジット環境が整ったところで登場し、高い知名度を生かして2015年秋以降続いていた日本物公共銘柄のワイドニングに歯止めをかけた。7年4ヵ月ぶりとなった2月の3年債は、予算拡大への対応と2017年度を見据えた戦略的な年限選択が当たり、良質かつ幅広い投資家の取り込みに成功した。

新規公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2016

J R 九州 10 月 25 日上場（福証 10 月 26 日） 売出：1 億 6000 万株 4160 億円
〈野村/三菱UFJモルガン・スタンレー/JPモルガン〉

JR三島会社では最初の株式上場。巨大民営化案件として市場の関心を集め、当年度を象徴する案件となった。借入金返済や固定資産の減損処理等を進めて IPO に臨み、非鉄道事業を中心とした成長ストーリーを打ち出した。事業の安定感や配当利回り約 3%という株主還元が評価され、旺盛な需要を創出した。

BEST DEAL OF 2016

L I N E 7 月 15 日上場（NYSE 7 月 14 日） 公募：3500 万株 1155 億円
〈野村/モルガン・スタンレー/ゴールドマン・サックス/JPモルガン〉

上場時価総額は約 7000 億円と年度最大で日米同時上場。メッセージングアプリ「LINE」のプラットフォームを活用した収益化の期待感から国内外で需要を集め、当年度の IPO 市場の活性化に貢献した。募集期間の短縮や仮条件レンジの再設定など運営上の工夫が見られた。

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2016

リクルートホールディングス
8 月 24 日 売出：5747 万 9200 株 2182 億 4852 万 2400 円
〈野村/モルガン・スタンレー/みずほ〉

売出総額が 2000 億円超という当年度最大の PO。持ち合い株の売却でオーバーハング懸念を払拭した。海外販売比率を 6 割とし、外国人投資家の裾野を広げて海外 M&A を積極化するという成長ストーリーを浸透させた。約 300 億円の自己株式取得を併せて実施し、既存株主にも配慮している。案件後の株価推移も堅調。

不動産投資信託証券部門

BEST DEAL OF 2016

三井不動産ロジスティクスパーク投資法人
〈大和/野村/SMBC日興〉 8 月 2 日上場 公募：21 万 2800 口 574 億 5600 万円

首都圏の先進的物流施設を投資対象とし、豊富なスポンサーパイプラインを活用した成長ストーリーが投資家の共感を呼んで、想定価格の 25 万円を 8%上回る 27 万円で条件決定した。上昇余地を残したブラッシングで、上場後の株価は 30 万円超で安定的に推移している。

BEST ISSUER OF 2016

オリックス不動産投資法人

不動産価格が高止まりし、リートの外部成長が困難となるなか、9 期連続の公募増資を実施し、リート市場の活性化に貢献した。資産規模の拡大とともに、テナントの入れ替えや LTV のコントロールなどで 1 口当たり分配金を着実に高めており、投資家の信頼を得ている。

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEALS OF 2016

スズキ ユーロ円 CB	3 月 7 日	5 年	1000 億円
スズキ ユーロ円 CB	3 月 7 日	7 年	1000 億円

〈野村〉

交付株数に上限を設けた現金決済条項スキーム (ANSWER) を国内で初めて採用。独フォルクスワーゲンから買い取った自社株の扱いが注目されるなか、斬新かつ工夫を凝らした商品設計で、大型の資金調達と自社株の活用による希薄化の抑制を実現した。発行額は当年度最大。

Equity 特別部門

BEST DEAL OF 2016

タカラレーベン・インフラ投資法人 6 月 2 日上場 公募：4 万 5166 口 45 億 1660 万円
〈みずほ〉

インフラファンドの 1 号案件。市場創設から 1 年 2 ヶ月を経て上場した。法律や税制など制度面の課題を乗り越え、上場商品としてのインフラファンドの地位の確立に貢献した。初物であるため、通常よりも長い 2 ヶ月のマーケティング期間を設け、投資家に入念な準備期間を提供した。上場時の分配金利回り (5.8%) は、後続案件のベンチマークとなっている。

■キャピタル・アイ Awards とは：

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債、地方債、サムライ債、外債 (日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、不動産投資信託証券 (J-REIT)、転換社債型新株予約権付社債 (CB) の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出し、表彰する。

◆株式会社キャピタル・アイについて

所在地:東京都千代田区西神田 3-1-6 日本弘道会ビル

設立:2006 年 7 月

資本金:8 千万円

主な事業の内容:金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

金融専門誌や関連書籍の製作・発行

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、一般債セカンダリー市場や CDS 市場、CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連や貸株の市場動向などを報道しています。】

ホームページ <http://c-eye.ne.jp>(契約者サイト)／ <http://c-eye.co.jp>(公開サイト)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部:菊地健之 03-6826-4721